

日本学術振興会
炭素材料第117委員会
第291回委員会議事録（案）

1. 日 時 平成21年9月18日（金） 9：30～16：00

2. 場 所 私学会館（アルカディア市ヶ谷） 穂高（東）

3. 出席者 33名 （順不同・敬称略）

委員 長： 寺井隆幸（東大）

主 査： 川口雅之（大阪電通大）、鏑木裕（東京都市大）、羽鳥浩章（産総研）

幹 事： 阿久沢昇（東京高専）、稲垣道夫（北大名誉） 吉田明（東京都市大）
遠藤守信（信州大）、小林知洋（理研）

委 員： 安部武志（京都大）、岩下哲雄（産総研）、蛭谷玄太（コバレントマテ
リアル）、沖野不二雄（信州大）、小田廣和（関西大）、近藤純子（東
洋炭素／代理：森下隆広）、塩山洋（産総研）、新野仁（物材機構）、
末長誠一（東芝）、園部直弘（クレハ／代理：村田浩一）、高波浩（タ
ンケンシールセーコウ／代理・木村直文）、豊田昌宏（大分大）、林
慎治（新日鐵化学）、福田敏昭（東海カーボン）

委員 外： 木村脩七（東工大名譽）、鳥飼直親（横国大）、中村和正（東工大）、
夏目勇（東海カーボン）、西澤節（元神戸製鋼所）、菱山幸宥（東京
都市大名譽）、宮嶋尚哉（山梨大学）

同伴者他： 児玉昌也（産総研）、吉澤徳子（産総研）、棚池修（産総研）

4. 本委員会議事経過

寺井委員長司会の下に本委員会を開催した。

4. 1 前回議事録の承認

以下を訂正し、前回議事録（案）を承認した。

B 分科会議事録 117-290-B-1 一行目 松村寛之氏は → 村松寛之氏は
117-290-B-2 最後の行 松村寛之 → 村松寛之

4. 2 第117委員会関係

(1) 委員長報告等

(a) 委員の異動等

入退会関係

退会：株式会社サムスン横浜研究所

(b) 日独セミナーについて

- ・ 第二回日独セミナー(117委員会とドイツ炭素学会との共催)は2010年に日本で開催。
- ・ ドイツ側の希望は9/18(土)に来日、9/20(月)～9/21(火)にセミナー開催
- ・ 尾崎委員が委員長からの依頼を受け、学振への補助申請を行った。
- ・ 実行委員会を設立することとした(開催場所選定、プログラム、歓迎行事、連絡、広報 etc.)。
- ・ 尾崎委員に実行委員長就任を依頼する。

(c) 次回以降の予定について

H21 第4回(292回) 11/19(木) 特別講演会 主婦会館プラザエフ

(合同開催：炭素材料学会60周年記念式典)

11/20(金) [B,C,D,A] 産総研臨海副都心センター

(会場担当：羽鳥主査)

H22 第1回(293回) 4/16(金) [C, A, B] 東京工業大学

(会場担当：榎幹事)

(2) 分科会報告

(117-291-A1) メソフェーズピッチ炭素繊維表皮における面間隔 d_{002} とラマンスペクトル

○菱山幸宥¹、吉田明²、浜村尚樹²、新藤恵美²、鎚木裕³、R. H. Bragg⁴

(東京都市大名誉教授¹、東京都市大総合研究所機器分析室²、東京都市大工学部³、University of California⁴)

(117-291-A2) ガーネットを用いた多層カーボンナノチューブの低コスト生成法

○遠藤守信¹、竹内健司² (信州大学カーボン科学研究所¹、信州大学工学部知的クラスター²)

(117-291-B1) グラファイト様層状化合物BC₂Nへのナトリウムの気相法および電気化学法によるインターカレーション

○川口雅之、山田薫 (大阪電気通信大学)

- (117-291-B2) 黒鉛電極へのカルシウムイオンの電気化学的挿入脱離
竹内紗綾、○安部武志（京都大学院工）
- (117-291-C1) ガラス状炭素の硝酸・硫酸・過酸化水素水による湿式酸化・腐食挙動
○中村和正¹、師岡弘樹²、新藤 斎²、田邊靖博³、赤津隆⁴、安田榮一⁴（東工大院総理工¹、中央大理工²、名古屋大院工³、東工大応セラ研⁴）
- (117-291-C2) 黒鉛化炭素微小球の表面組織
○吉澤徳子¹、曾根田靖¹、羽鳥浩章¹、植仁志²、安部武志³（産総研¹、東海カーボン²、京都大³）

4. 3 報告事項

(1) 炭素材料学会関係

- (a) 学会関係：阿久沢委員より以下の報告があった。
- ・ 会費未納者に対して 6 月から 9 月にかけて督促を行っている。納付されない場合には除名処分を進める。
 - ・ 9/4 にグラフェンをテーマとしたスキルアップセミナーが開催され、35 名の参加があった。
 - ・ 60 周年記念行事は 11 月 19 日午後開会。前半は 117 委員会特別講演会、後半は記念式典および祝賀会
 - ・ 平成 22 年度の年会は兵庫県立大で行われる。
 - ・ 学会賞に関して、選考委員会の内規作成を進めている。
- (b) 炭素誌関係：錦木幹事（編集委員長）より以下の報告があった。
- ・ 239 号に 60 周年記念行事の告知を行った。
 - ・ 240 号に電気化学の特集、243 号にグラフェン・ナノカーボンの特集を掲載する。
 - ・ J-stage アーカイブ事業に関連して、創刊号から昨年までの論文等の pdf を収録し、索引を作成する。第 15 号のみコピー版しか現存していないので、所有されている方があれば連絡を頂きたい。
 - ・ Carbon 誌に掲載されている炭素の英文アブストラクトに関して、Thrower 氏 (Editor-in-Chief) のチェックを受け、執筆者了解の後に掲載されることとなった。
 - ・ 景気の影響で広告枠を埋めるのに苦労している。
- (c) その他
- ・ 豊田委員より 9/3-5 に大分県湯布院町で開催された第 47 回炭素材料夏季セミナーについて、60 名以上の参加があったことが報告された。

(2) 国際会議関係

・フランスで開催された Carbon2009 の若手参加者に対して、Carbon2008 長野基金より補助を出したことが報告された。また、1st Asian Carbon Conference (2009.11.25-27, Deli)、日本—トルコ炭素シンポジウム (2010.3.18-19 Istanbul) の若手参加者に対しても補助を行う。

(3) 特別講演会について

(炭素材料学会関係の項に記載)

(以上)